

平成 23 年（2011 年）東北地方太平洋沖地震 3.29 へリ調査結果（速報）

独立行政法人土木研究所
土砂管理研究グループ地すべりチーム

本速報は、3 月 29 日に国土交通省砂防部、国土技術政策総合研究所危機管理技術研究センターと
合同で、ヘリコプターにより揺れの大きかったエリアのうち広域的な調査が未実施であったエリア
を主とした上空からの目視調査を行いました。その一部について報告します。

（本資料に掲載している情報は速報であり、今後変更することもあります。また、規模に関する数
値は図上計測または目視によるものです。）

なお、今回の地震により被災した皆様にご心よりお見舞いを申し上げます。

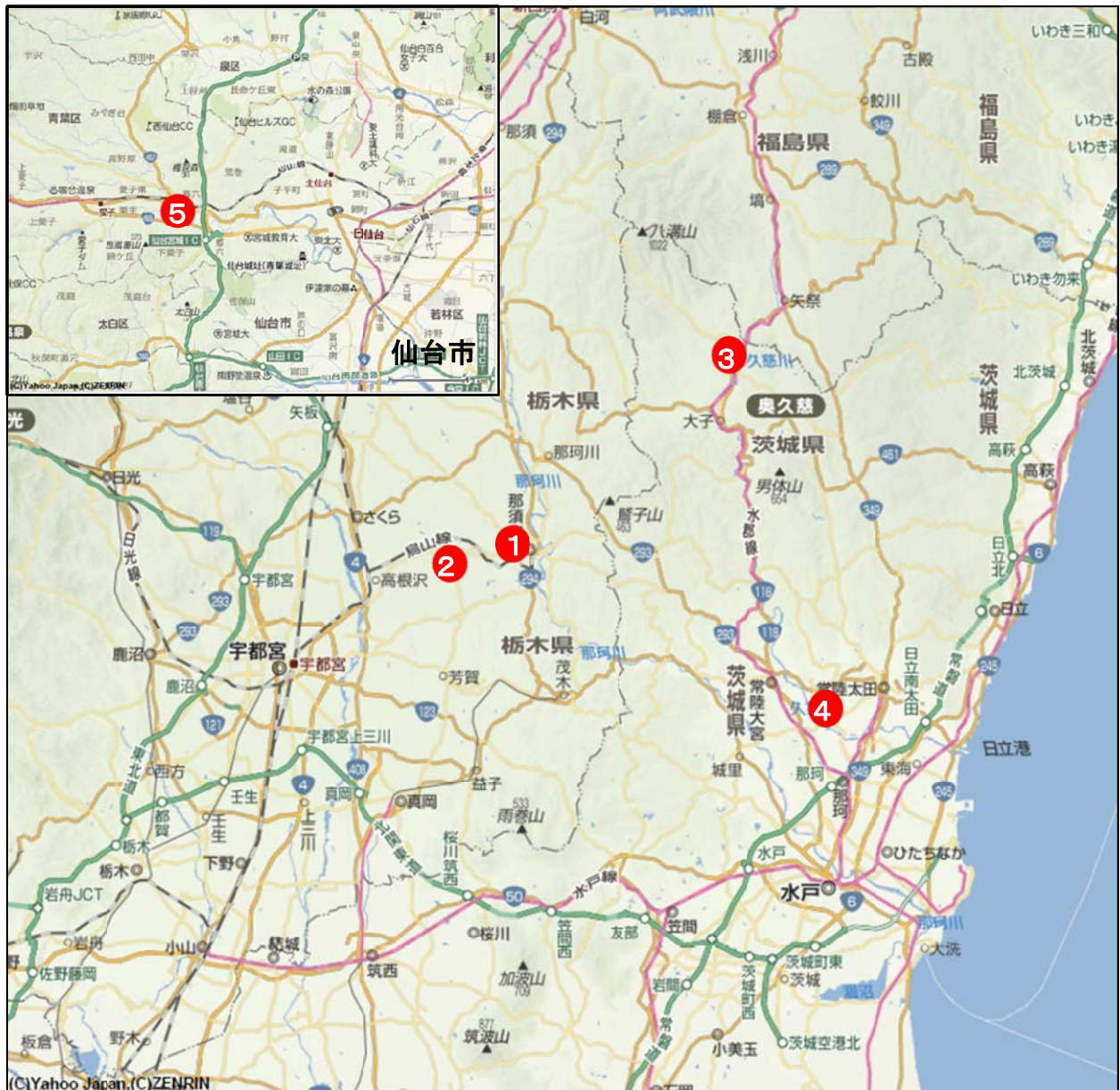


図-1 地すべり等発生箇所位置図

以下に、確認できた主な地すべり等の状況について報告する。

① 栃木県なすからすやましかわにし那須烏山市川西

谷地形の中で土塊が滑落し流動化した地すべりとみられる。頭部から堆積した土砂の先端まで約 200m、頭部付近の幅は約 50m。移動した土砂は谷を出た後に拡がって堆積している。



② 栃木県高根沢町上柏崎 たかねざわまちかみかしわざき

南北方向に伸びる比高差約 30～40m、幅約 200m の台地斜面（西向き斜面）に複数の崩落箇所を確認できた。なお、国土交通省による地上調査の結果、当箇所では長さ約 900m にわたり多くの亀裂が発生している模様。



③ 茨城県大子町下野宮周辺 だいごまちしものみや

久慈川右支の小溪流で確認された地すべり（長さ約 50m、幅約 100m）。調査時には湛水は確認されなかった。



④ 茨城県常陸太田市松栄町周辺
ひたちのおたしまつざかちょう

久慈川と浅川に挟まれた丘陵の斜面における斜面崩壊。南側箇所は地震により発生したものかどうかは未確認。



△東側箇所



△南側箇所

⑤ 宮城県仙台市青葉区西花苑

宅地地盤において、斜面頂部の住宅数棟の地盤の一部が崩れ、傾いた家屋の存在が確認された。移動土砂は斜面下部の住宅の近くまで到達している。

